

増えている 大腸がん

健康に関する情報がいっぱい 遊びに来てね!

げんき君

<http://www.genki1616.co.jp>



ご不快な思いをされましたら、ただちに責任者までご連絡下さい。
本社フリーダイヤルでもお伺い致します。

☎0120-477955 (石田)

かちどき薬品グループ

増えている大腸がん

大腸がんは、日本人に増えているがんの1つです。日本ではこれまで、胃がんが非常に多かったのですが、近年、大腸がんは男女とも増え続けています。将来的には、胃がんを追い抜くとの予測もあります。



大腸がんの原因

1. 人口の高齢化

大腸がんの発症のピークは60歳代で、以下70歳代、50歳代と続きます。

高齢化が進み、こうした年代の人たちが増えると、大腸がんも増加することになります。

2. 食生活の変化

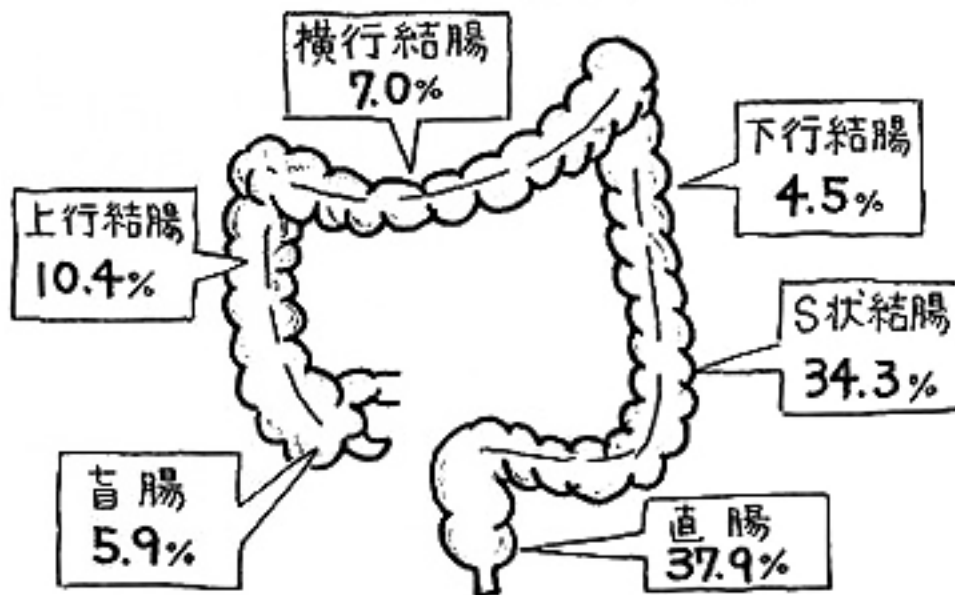
最近では、動物性脂肪や動物性たんぱく質の摂取量が増え、炭水化物や食物繊維の摂取量が減っています。その結果、便が大腸にとどまる時間が長くなり、便に含まれる発がん物質が大腸の粘膜に接している時間が長くなるため!

大腸がんの種類

大腸がんは、直腸とS状結腸にできるものが、全体の約65~70%を占めます。

がんのタイプはいろいろありますが、大腸がんのほとんどは、大腸の粘膜がポリープ状に盛り上がったタイプのものです。

—— 大腸がんができやすい場所 ——



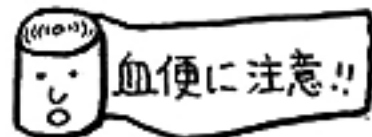
Q. 大腸ポリープは、すべて大腸がんになる？

A. 一般に、「ポリープがすべてがんになる」と思っている人が多いのですが、実際にがんになるのは、ごく一部に過ぎません。

大腸がんの自覚症状

【症状】

- ・排便時の出血（最も代表的な症状）
- ・便が細くなる。
- ・排便後も残便感がある。



目に見える出血と見えない出血

血便には、「目に見える出血」と「目に見えない出血（潜血）」があります。

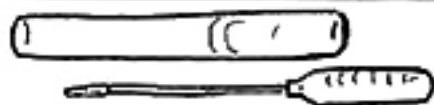
目に見える出血・・・便の中に血液が混じっているのが見えたり、便といっしょに血液がポタポタと出る。

目に見えない出血・・・血液の色が赤黒く変色してしまったり、便の中に血液が混じり込んでしまい、便と区別しにくくなることもある。



※排便時、少しでも出血があるようなら、放置せずに検査を受けるようにしましょう。

検査と診断

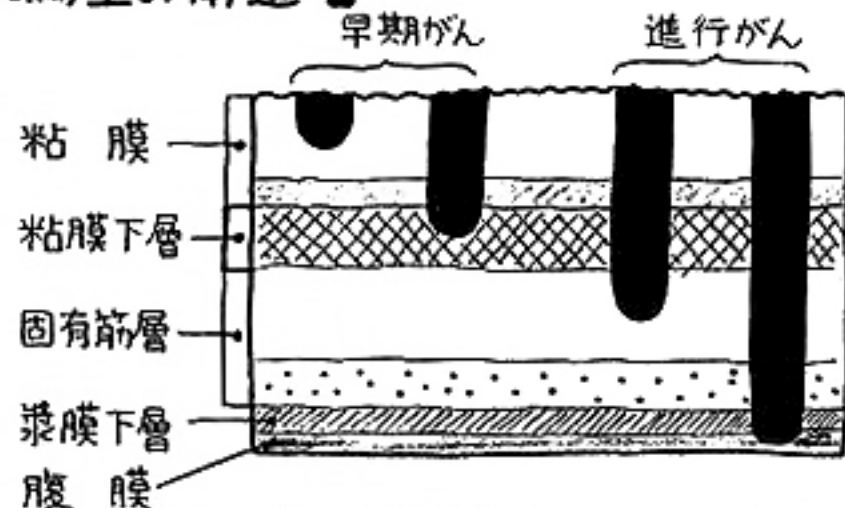


検査	内容	メリット	デメリット
便潜血検査	便を採取し、便に血が混じっていないかを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 食事制限などの必要がない。 身体的な負担がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 痔による出血も陽性反応が出る。 早期がんや平坦ながんを見つけにくい。
注腸造影検査	肛門からバリウムと空気を注入し、大腸を膨らませてエックス線で撮影する。	<ul style="list-style-type: none"> 盛り上がったがんやポリープを発見できる。 大腸がどのくらい狭くなっているかがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期がんや平坦ながんを見つけにくい。 身体の負担がやや大きい。
大腸内視鏡検査	肛門から内視鏡を挿入し、大腸の様子を直接観察する。	<ul style="list-style-type: none"> 大腸全体を詳しく観察できる。 その場でポリープや小さながんを切除することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に2Lの下剤をのみ、便をすべて排泄する必要がある。 痛みや出血を伴うことがある。

※₁ 平坦ながん…粘膜にとどまっているがんのことをいう。

進行度と治療

【大腸壁の構造】



大腸壁は、「粘膜」、「粘膜下層」、「固有筋層」、「漿膜下層」、「腹膜」の5層から成り、がんが粘膜下層までとどまっていれば「早期がん」、粘膜下層を越えているものを「進行がん」といいます。

【治療】



大腸がんの主な治療法は、「内視鏡的治療」、「手術療法」、「放射線療法」、「化学療法」の4つです。

治療の基本は、「手術療法」が中心です。

体に負担の少ない治療法

●内視鏡的治療

- ・開腹せずにがんを切除できる
- ・体に負担が少ない
- ・外来での治療も可能(数日間入院する場合も有)

●腹腔鏡手術

- ・腹部に小さな孔を数ヶ所開け、そこから腹腔鏡や手術器具を入れて切除。
- ・切開部位が小さく、1週間程度の入院です。

機能を残す手術

●かつやくきん肛門括約筋温存術

- ・現在、直腸がんの80~90%で肛門を温存できるようになっています。

●自律神経温存術

- ・排尿、性機能をできるだけ温存するために、残せる神経は残しながら行います。

⑥



早期発見と予防のために

【大腸がんにかかりやすい人】

- ・40歳以上の人
- ・食事に肉類や高脂肪の多い人
- ・大腸の病気(潰瘍性大腸炎など)にかかったことのある人
- ・家族に大腸がんの病歴のある人

※40歳以上の方は、定期的に便潜血反応検査を受けましょう。

【大腸がんの予防】

- ・肉食を控えめにする。
 - ・便秘を整えておく。
 - ・野菜をたくさんとる。
 - ・適度に運動して腸の運動を活発にする。
 - ・喫煙は、すべてのがんの原因になるといわれています。
- 禁煙に努めましょう!



⑦